

令和4年度第5回秦野市行財政調査会

1 開催日時	令和4年11月14日(月)午後1時30分から午後3時47分まで	
2 開催場所	秦野市役所本庁舎3階3A会議室	
3 出席者	委員	坂野委員、小林委員(欠席)、茅野委員、大屋委員、横溝委員、田村委員、足立委員、西尾委員、其田委員、松原委員
	事務局	政策部長、行政経営課長(欠席)、同課課長代理及び担当
	関係課	【総合政策課】 総合政策課長、同課課長代理及び担当 【はだの魅力づくり推進課】 はだの魅力づくり推進課長及び同課担当
4 議題	(1) 地方創生関連交付金の効果検証について (2) 第2期秦野市まち・ひと・しごと創生総合戦略(秦野市総合計画前期基本計画リーディングプロジェクト)に係る外部評価について	
5 配付資料	<p>次第</p> <p>資料1-1 地方創生関連交付金効果検証 (「本物の魅力」が見つかる表丹沢～「都心から近い山岳・里山アクティビティの聖地」に向けた表丹沢ツーリズムの確立～)</p> <p>資料1-2 令和3年度表丹沢ツーリズム構築等事業について</p> <p>資料1-3 地方創生関連交付金効果検証 (ヤビツ峠周辺観光拠点施設を核とした「森・里・観」連携事業の推進と地域ブランドの確立)</p> <p>資料2 第2期秦野市まち・ひと・しごと創生総合戦略(総合計画前期基本計画リーディングプロジェクト) 令和3(2021)年度評価報告書(案)</p>	

【事務局】

それでは、ただ今より令和4年度第5回行財政調査会をはじめさせていただきます。

行政経営課長は本日、体調不良につき欠席をさせていただきます。

はじめに、本日使用する資料の確認をさせていただきます。

－ 資料の確認 －

以上、不足等はございませんでしょうか。

【事務局】

本日、御出席の委員数は9名であり、過半数の出席となりますので、秦野市行財政調査会規則第6条第2項の規定により、会議が成立しておりますことを御報告申し上げます。

なお、本日は、議事の関係から総合政策課の前回出席していない担当の職員、はだの魅力づくり推進課の職員が出席しておりますので、簡単に自己紹介をさせていただきます。

【総合政策課及びはだの魅力づくり推進課】

－ 自己紹介 －

【事務局】

それでは、会長に御挨拶いただき、行財政調査会規則第6条第1項の規定により会長が議長となりますので、その後の進行をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

【会長】

改めまして、いつもお忙しい中、お集まりいただき、ありがとうございます。

本日が最後になりますけれども、今回もどうぞよろしくお願いいたします。

議事に入る前に、本日の会議録の署名委員ですが、規定により会長と会長が指名した委員1名となります。名簿順をお願いさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

それでは本日の議事ですけれども、二つございます。一つは、地方創生関連交付金の効果検証について、そしてもう一つは、第2期秦野市まち・ひと・しごと創生総合戦略に係る外部評価についてです。

はじめに、議事(1)の地方創生関連交付金の効果検証についての審議をしていきたいと思っておりますので、議事に係る説明をお願いします。

【はだの魅力づくり推進課】

－ 資料1－1及び資料1－2に係る説明 －

【総合政策課】

－ 資料1－3に係る説明 －

【会長】

ありがとうございます。

資料に係る順番を問わず、御質問や御意見等をしていただければと思いますので、よろしくお願いします。

【委員】

今回のOMOTANの企画は、どちらかというと、観光客などを呼び込むための遊びを中心にした企画が多いと思います。前にも申し上げましたが、働くという視点で、下草刈りもこのようなメニューの中に一緒にしたらどうかと思いますが、いかがでしょうか。

現状、下草刈りについては森林ふれあい課から案内が届きます。このため、例えば、丹沢で一緒に汗をかきませんかとホームページで表示するとか、組み合わせたらどうかと思いますが、いかがでしょうか。

それから表丹沢野外活動センターに入浴施設がありますので、そのあとに入浴もできますという形で、そうすると森林ふれあい課の皆さんだけ必死になって苦労して、下草刈りということではなく、広がりが出てくると思います。

環境を守るというのは、大変なことです。来場者にその辺も理解してもらおうという意味で、そういうことを加えたらどうかということをご提案させていただきます。

【はだの魅力づくり推進課】

ありがとうございます。御提案のことにつきまして、私どもとしては、今後、表丹沢ツーリズム（仮称）を構築していく中で、ただ単に遊びだけではなく、体験ごとという大きな括りの中で、下草刈りも含め、ゼロカーボンへの取組、森林の活用見直しが指摘されております。秦野市の大きな資源は森林ですので、森林組合とも話をしながら、体験や見学、さらには、市民のほか、都心部に在住の方も秦野の森林に関わっていただくことによって、森林の重要性や森林が水を育むことなど、色々な部分で役割を果たしていることを皆さんに再認識していただくということも大切な取組だと考えています。

今の御意見は是非とも来年以降、活用させていただきたいと思います。それから単独で行うというのではなく、森林ふれあい課や農業振興課などの関連部署と連携しながら、お互いに補完し、より効果的な事業が実施できるようにしたいと考えています。

【会長】

今のことと関連するのですが、本日もペットボトルのお水が置かれていて、おいしい秦野の水ということでキャンペーンを行っていると思います。それから、今回、OMOTANというキャンペーンを始めましたが、OMOTANのページに行ったときに、水が無いと思います。

たくさん色々な資源があるけれども、秦野をブランディングしようと思ったときに、ある時は水をキャンペーンして、ある時はOMOTANを行ってなどと、統一性が欠けるように感じます。

戦略として、ある時期は水を中心にキャンペーンして、今度は違うテーマを取り扱うということはあるのだと思いますが、軽重の付け方が見えなくて、残念だなと感じました。

【はだの魅力づくり推進課】

御指摘のとおり、そこは課題であると認識しています。実際に表丹沢をテーマに始めたとき、先行して秦野名水に関する取組を進めており、それとの連携がしっかりと出来ていない中でスタートしているというのは事実であると思います。

現在、同じ環境産業部内に環境共生課が置かれています。また、環境共生課が所管の水汲み場所で名称が付いていない箇所が3箇所あります。このことから、その点をOMOTANとコラボをして、水汲みの名称の募集をしています。

秦野名水とOMOTANをしっかりと連携をさせながら、一つの方向性のもと、今後は進めていきたいと思っています。

【委員】

何年も前から申し上げていることとまた同じことを発言させていただくようになろうかと思いますが、表丹沢は客を呼び込まなくても、首都圏からたくさんの方が山登りの入門コースとして、お客さんが来てくれます。

丹沢登山、表尾根登山、大倉尾根登山と麓での遊びを組み合わせるということが、OMOTANの狙いかと思います。そのうえで、ホームページにモデルコースが紹介されています。そのうち山を登るコースは表尾根を登るコースとそれから岳ノ台を回ってくるコースとあるのですが、両方ともヤビツ峠が出发点になります。

ヤビツ峠は標高が高く、大変魅力的な場所です。数年前の行財政調査会で観光課に対してクレームを申し上げたのが、登山というのは皆さん御存じのとおり

り、早く出発して、早く帰ってくるということで、そのことにより何かあったとしても、日役にならないようにするということです。

このため登山者は、電車やバスで行くと、始発で秦野駅へ着いて、秦野駅からヤビツ峠行のバスに乗り換えるわけです。ヤビツ峠のバスが小田急の始発から1時間ぐらい経たないとありません。おそらく今も開通していないと思いますが、その改善を是非やっていただきたいというお願いをしました。現実はどうかと言うと、当然、始発の連絡バスがあるだろうと、登山客が秦野駅のバス停に溢れると神奈中が臨時バスを出しています。そうならば、始発と連動したバスを運行すべきだと思います。なぜ、このようなことを申し上げているかと言うと、お客さんと呼び込むという観点から考えたとき、電車、バスでは遅くなるからということで、自家用車で向かう人もいます。その点、電車、バスの連絡がしっかりと出来ていれば、そのようなお客さんを少しでも減らすことができると思います。

そうでなくても、レストハウスは作りましたが、駐車場の数は増やしていない、それから向かって右側のトイレはそのまま、ヤビツ峠は登山の基地として、レストハウスは整備したけれども、入口としての整備はやっていないと思います。

そのような受入体制が無いままに、OMOTANキャンペーンをやるのは何事かと思っています。

ヤビツ峠への接続バスとトイレは行列ですし、それからあそこは表丹沢以外に、大山に登るにも最も短い距離で登れるコースですので、そのような意味でも重要な拠点だと思います。

レストハウスの整備はしたが、登山基地の整備をやっていないのではないかという印象が残っていますが、いかがでしょうか。

それから、表尾根、大倉尾根のトイレが少ないということを申し上げたら、国立公園であることから県がトイレを整備してくださいまして、木ノ又小屋、見晴小屋、塔ノ岳山頂で大きなトイレの工事を進めています。それで足りているかと言うと、入門コースとして、最低でも2時間で1箇所のトイレが必要だと思います。出来れば1時間くらいで1箇所のトイレが無いと、特にそのターゲットを女性、ファミリー層としているのであれば、トイレの間隔が重要だと思います。その時も申し上げましたが、なかなかトイレを作るのは大変なことで、今回県が整備したものは大変良く出来ていると思います。電気、水なしで全て完結するというもので、素晴らしいものを整備していただきましたが、その一方でお金と面積が必要です。

特にエントリーコースでは、緊急的なトイレが必要だと思います。幾つかの山で用意しているのですが、布製のテントでトイレは無く、中に入ると300円

から 500 円で簡易トイレを売っていて、そこで用を足して、それをきれいに包んで持って帰るというものです。そして、下山すると回収ボックスがあるという具合です。これなんかは、大変喜ばれると思います。

北アルプスで小屋と小屋の間隔が長いところを歩いていますと、おむつを売っています。間隔が長く、4 時間、5 時間の間隔になると、コントロールすることも難しくなります。このため、実際に登山者でおむつを使っている方は結構いられます。

そのようなことを考えると、災害用の臨時トイレのようにテントと枠だけあり、そこに簡易トイレをセットして、用を足したら、それを包んで、防臭袋の中に入れて持ち帰るということで、このようなものを何箇所かセットすることは、お客さんにとっては非常に喜ばれるのではないかと思います。

それから、この点、OMOTAN のモデルコースでトイレの間隔、トイレの場所を明示していないと思います。トイレの場所とその間隔は何時間か、そうしたことを明示してあげることが、エントリーコースとして、特に女性や家族向け、実際に上ってられる方は、結構年配の方も多いので、是非、そのようなサービスをしたらいいのではということ、3 年ぐらい前の会議で申しあげました。

この 2 点について、現状を教えてくださいたいと思います。

【はだの魅力づくり推進課】

1 点目のバスの関係については、ヤビツ峠レストハウスを観光振興課の方で整備してきた中で、今年度、ヤビツと蓑毛地区にスポットを当てて、表丹沢魅力づくり構想の実行計画を作るということで、夏から着手しています。

現在、協議会を立ち上げ、環境省や県の職員にも入っていただいて、自然公園法の関係について助言をしていただいております。また、地元で事業を行っているボスコ、丹沢ホーム、ヤビツレストハウスの方々や、さらには蓑毛で活動されている大日堂の保存会の方々などにも入っていただき、計画づくりを進めています。

そのほか、関わりたいという意向を持っていただける方を集め、ワークショップもやっています。そこには登山をする方や学生にも入ってもらっているほか、直接山に関係を持たない方にも参加いただいております。

そのようなことで、色々と意見を聞く場面を作っています。

また、その中の一つとして、二次交通の在り方をもう一度見直そうと考えています。バスはもちろん、タクシーや他のアクセスの方法も含めて、トータルのヤビツ峠までのアクセス、直接ヤビツ峠まで上がるのではなく、昔の登山の玄関口が蓑毛であったことから、蓑毛を起点として、山に入ること

も、見直していきたいと考えており、また蓑毛地区からもそうした声があります。そのためには、蓑毛地区に駐車場が必要であるとか、様々な御意見をいただいています。その中には、神奈中や小田急、タクシー協会も入っていただいております。このため、ただいまの御意見を協議会でも提供しながら、少しでも改善していきたいと思っております。

ヤビツ峠の駐車場、それからトイレの関係で、特にトイレに関しては、今年度のゴールデンウィーク頃から故障をしまして、トイレが使えなくなり、その前に仮設トイレを並べて対応している状況です。

この点につきましては、県要望という形で、トイレの改善と駐車場に関して、要望を上げている状況です。県では、そういった中で、ヤビツ峠のトイレに関しては、改修するという事で回答をいただいております。

どのような形で改修をしていくのかということも、先ほどのヤビツ峠・蓑毛の協議会の中で調整を図るということで、神奈川県と検討を進めています。

ヤビツ峠に関しては、先ほど御指摘のとおり、レストハウスが先に出来ており、本来はそれが出来るときにトータル的に計画をしなければいけなかったと思いますが、当初はレストハウスを作るということだけで動いていたため、後追いにはなっておりますが、ただいまの御意見をしっかりと受け止めて、あの場所をヤビツ峠に来ていただくための拠点にしていきたいと考えております。

それから、先ほどの登山中のトイレの問題に関しては、昨日5時間程、小田急のツアーで、若い女性の方や御年配の夫婦の方と一緒にヤビツを起点として山を登ってきましたが、トイレは大変重要であると感じています。

トイレの問題についても、表丹沢全体という議論に結びつけられるかは分かりませんが、現在の協議会の中で御意見を伺いながら、市が出来ること、神奈川県に働きかけなければいけないこと、そういったことを整理しながら、対応していきたいと思っております。継続的な形にはなりますが、そのようなことで取組を進めているという状況であります。

【委員】

継続課題と理解しましたが、あまり時間を掛けない方がよろしいかと思っておりますので、是非、よろしく申し上げます。

今、表尾根で登山をしている仲間内で、ここ1、2か月の最大の話題が新大日茶屋の撤去問題です。御存じかと思いますが、表尾根にはたくさん小屋がありました。書策小屋が無くなり、その撤去はきれいに行われました。現状、新大日茶屋は、物理的に潰れており、大変ひどい状態です。

OMOTANのホームページの新大日のページを見ると分かるのですが、ちょうどそこが見えないような写真を上手に載せています。

山好きな方が、その小屋を撤去するための動きとして、ボランティアをベースに始めようとしています。本来、あの場所は国有地であり、国有地を借りた方が辞めたときに、原状回復をするということだと思いますが、それが出来る状態ではなく、県も放置し、市も放置し、20年ぐらい経つと思います。

この点は、山好きに任せておくのでしょうか。

【はだの魅力づくり推進課】

この点につきましては、国有地で個人の方がお持ちのもので、本来であれば個人の責任で撤去していただかなければならないのですが、撤去するためには、例えば、ヘリコプターで資材を下さなければならないこと、そして下したものをどのように処分するのか、それから壊す際にも人工（にんく）が必要であること、様々な課題があります。

そのような中、今年になってから、観光振興課が中心になって調整を進めており、国や県が行わないのであれば、市が率先して行うべき課題として取り組んでいるところです。

県に対しては、市からお願いをして、もともと登山道を整備するために、県はヘリコプターを飛ばしますので、その機会にヘリコプターで資材を下してくれないかということ、県と調整をしています。下した資材は、市が処分をする方向で検討を進めています。

そういったことで、ボランティアとして一生懸命やっただいてくださる方と一緒にどうしたら撤去できるのかということ、観光振興課が中心になって調整を進めています。この点、市とその地元の方との連携のもと、何とか早めに目処を付けたいと考えているところです。

それからホームページに関しては、表丹沢魅力づくり構想を作るときにネガティブなイメージがある点も承知していましたが、外部の委員からは魅力づくり構想であることから、隠すというわけではないが、ネガティブな面を出すのではなく、より魅力が発信できるようにすべきではという意見もあり、今のようなホームページの作りにしているということです。

先ほどお伝えするのが漏れてしまったのですが、ホームページ上のトイレの案内ですが、代表的なコースに関しては御指摘のとおりトイレの位置が入っていないのですが、それぞれのスポットを紹介している中ではトイレを紹介しています。ただ、先ほどの御指摘はごもっともですので、ホームページは随時修正をしていますので、その中で対応をしていきたいと思っています。

【委員】

小屋間の距離、小屋間の時間、トイレ間の時間が重要だと思いますが、表丹沢の場合、トイレの整備を県が行ったことから、トイレは小屋の中に無いので、小屋が閉まっても、トイレが使えます。これは良いことだと思います。

モデルコースに距離と時間を書くようであれば、それに加えてトイレまでの距離と時間を書いていただいた方が良いと思います。新大日茶屋に関しては、ここまで来ると行政がごみ屋敷と同様の考えで、行政代執行も含めてきちんと対応していただく必要があると思います。

ボランティアの方々に事故があったとき、大変複雑な話になりかねないので、その点、十分注意をしていただいた方がよいと思っています。

それから、これはいままで言ったことは無いのですが、市道52号線の戸沢林道について、あそこの一番奥の終点というのは、表丹沢のもう一つの魅力である沢登りの拠点中の拠点です。そのため、あそこにはヘリポートもあり、パトカーも救急車も入るということで非常に重要な場所だと思います。ただ、あそこのトイレもひどい状態です。

あそこはトイレが二つありまして、一つは市が管理をしている公衆トイレで、それからもう一つは県の登山警備派出所を整備したときに、トイレも作ったというものです。この2つのトイレは両方とも足を踏み込むのは恐ろしいぐらいの状態です。車で行けるため、月1回ぐらい清掃したらどうかと思うのですが、今年に入ってないので、今年の様子は分かりかねますが、きれいになっているのでしょうか。

【はだの魅力づくり推進課】

観光振興課が所管しておりますので、直接現場を見ていないのですが、おそらく例年どおりではないかと思っています。

【委員】

今度、写真を撮ってホームページに載せましょうか、と言いたいぐらいの状態です。トイレがひどいからどのようなことが起こるかという、周辺で用を足してしまいます。

トイレは作らず、自分たちで持って帰るといことなのであれば、それでいいと思うのですが、作ったのであれば、きちんと使えるようにしてあげないといけないと思います。

それに関連して言うと、これも数年前に申し上げましたが、秦野市は結構先進的な取組をしていて、公園にトイレを作って、チップトイレというのを始め

ましたが、おそらくこれを始めたのは秦野市が一番早かったのではないかと思います。

それはそれで結構なことだと思うのですが、山のトイレに関して言うならば、全て有償トイレです。チップではなくて、100円払ってくださいという有料のトイレです。それが当たり前になっているのに、相変わらずチップトイレになっています。

現実としてお金がかかるものですので、もう有料トイレでいいと思います。北アルプスでは、幾つかのトイレをシーズンオフにヘリで下します。このため、大変高いお金が掛かります。そのような処理をするのが当たり前なので、お金を払うのも当たり前という登山者の意識が今変わってきている中、どうもチップということが納得いかないのが、観光振興課に伝えていただきたいのですが、登山用のトイレを作るなら作る、そして作るのであれば管理をして、それから管理をするに当たっては、有料のトイレとして1回100円にしてしまっていていいと思います。

その点の感覚が昭和30年代からずっと引きずったままで来てしまい、中途半端になっていると感じます。

それから、県と市と2つ管理するのが大変であれば、どちらかを管理して、どちらかを辞めてしまうということも考えるべきだと思いますので、是非とも観光振興課にお伝えください。

【会長】

今の話をお伺いして、具体的な御提言をいただいたので、それを御検討いただき、かつ、それを出来るだけスピード感を持って、対応すべき課題に対応していただきたいということだと思うのですが、今回のテーマで落とし込むとしたら、ウェブページや情報発信という設計の問題として考えたとき、例えば、先ほど、写真を載せましょうかというお話がありましたが、写真が載せられるように、何か問題点があったら、ウェブ上に写真などの投稿が出来るという設計もあり得るのかなと感じました。

ワークショップをして意見を聞くということも一つの方法だと思うのですが、実際に歩かれている方、利用されている方、森林セラピーの利用者など全ての方を対象に、気軽にウェブページに良かった点、変えてほしい点、現状についての情報提供など、そのような仕組みがあってもいいのかなと感じました。

【委員】

申し上げたかったことは、私がそのようには載せなくても、他の人が色々と投稿をして帰っていくわけです。そうなるからでは遅いと思いますので、OMOTANという良いものが出来た一方で、悪い面も含めて、どんどん出されてしまうおそれがあるということです。

【はだの魅力づくり推進課】

OMOTANですが、SNSを活用するということを1つの柱におき、インスタグラムも公式にやっております。

表丹沢魅力づくり構想は、登山や自転車はある程度定着しているもので、それ以外の魅力をいかに発信していくかということも比重を高くしております。

表丹沢全体で捉えた中で、皆さんが行ってよかった、逆にこの点は改善してほしいということを含めて、投稿できるよう、インスタグラムを7月から開設しています。

市が一方的に情報を発信するというのではなく、相互に連携しながら、広がりを持たせていきたいというのが、今回のホームページやSNSの売りにしています。御指摘のことに関しては、見落とさずに今後も進めていきたいと考えています。

【会長】

インスタグラムのフォロワー数はどのぐらいになるのでしょうか。

【はだの魅力づくり推進課】

現在、965名の方からフォローしていただいております、これをさらに増やしていきたいと考えています。

その中で、利用者目線での御意見もどんどんいただけるかと思っておりますので、そういうところはオープンにしながら、やっていきたいと思っています。

【委員】

これも従前から申し上げ続けていることなのですが、前回の会議でも申し上げましたとおり、山を下りてきてトイレに入ると、田舎の方であれば、そのトイレに温泉のパンフレットなどが置いてあって、又はタクシーの番号の案内が置いてあります。

そのようなことをしないと、秦野で消費をしてもらえず、駅に着いたら新宿まで帰ってしまいます。

山を下りたところで、おいしい水が10%引きであるとか、これを持ってい

けば5%引きになるとか、黙っていてもお客さんが来ると、胡坐をかいているように感じています。

田舎の方ではどうやって登山客を集めようかと必死になっています。

ここまで申し上げてきて、何を言いたかったかという、令和3年度にOMOTANの事業を実施したことを否定するものではありませんが、その前にすべきことがあったのではないかということです。

アクセスの問題、トイレの問題、それから地元企業との連携の問題、こういったことをしっかりとやったうえで、OMOTANのツーリズム構築等事業をしていただくということをしないと、足腰定めていない中、情報発信だけという構造は良くないと最後にまとめて申し上げます。

【はだの魅力づくり推進課】

いただいた意見として、まずはしっかりと参考にさせていただきたいと思えます。表丹沢魅力づくり構想は令和元年から着手し、令和2年9月に公表しました。

策定する中でアンケート結果などから、課題としては情報発信がうまくいっていないこと、もっと場所と内容の周知をしてほしいというのが一番大きな声でした。

はだの魅力づくり推進課だけが、表丹沢の魅力づくりを進めるわけではないと考えており、全庁的な推進体制のもと進めております。先ほどのトイレの問題は観光振興課の所管になりますが、観光振興課だけが対応すればいいということではなく、全庁的な課題であると認識しています。

はだの魅力づくり推進課として進めなければいけないものは、表丹沢のブランド化、表丹沢を多くの方に知ってもらうというところが、この課の役割だと考え、そのための取組を進めています。

そのような中で、ツーリズム事業、ホームページやロゴマークの作成といった取組を進めてきましたが、御指摘のとおりその下地というところが出来ていない中で、情報発信というところは、そのとおりであると思えますので、その点、少しでも追いつくようにスピード感を持って、対応していきたいと考えているところです。

【会長】

今のことと関連するのですが、今回の事業ということに落とし込んで議論をすればしたら、おそらく秦野に来られる方は、1つの目的で1回の旅行として帰ってしまうということが問題で、1回の旅行で、その周辺にもう1つ、2つと魅力を作り出せるかということが重要なのだと思います。

その時に、茅野委員が御指摘のように色々な情報が目に触れるようにするというのもそうですし、ウェブページの中でついでにここも寄ろうかという気持ちになるような情報が提供されている、そういう体験がセットで設計されていると回遊が増えると思います。

それからもう一つ気になったのは、受容性調査ということで実施されていますが、この結果として、市内の方は評価をしているものの、市外の方はあまり評価をしていないということで、またその理由は市外の人というのは多くの機会を経験されていて、目が肥えているということだったと思います。そうだとすると、致命的であって、相対的に見ると秦野の魅力は高くないということにつながると思います。

それはなぜそのような評価につながったのか、潜在的な魅力はあるものの、プログラムの組み方が悪かったのか、それとも潜在的な魅力をより開発する必要があるということなのか、それにより対応の仕方が変わってくると思います。それはどのように考えていられるのでしょうか。

【はだの魅力づくり推進課】

御指摘のことに关しましては、コンテンツの作り方のところで他のイベント等と比較をして、評価が低くなってしまったのだと考えています。

構想を作るとき、それから現在の取組を進めている中で、市外の方や民間事業者の方とお話をする機会が多くあるのですが、表丹沢というのは秦野市民が思っている以上にポテンシャルがあるということで高い評価をいただいています。

私も子供の頃から秦野におり、山のすぐ麓で育ったものですから、山の良さはあって当たり前でしたが、市外の方とお話をする中で、この山の良さというのを再認識しているところです。

市外の方の評価が低くなっている要因としては、コンテンツやツアーの作り方に問題があったものと考えております。今回、敢えて一番寒さが厳しい時期に実施しました。これは暖かい時期に行っても、マイナスの要素が見えてこないと考え、そのように取り組んだものです。当日は、外にいると手がかじかむぐらいの気候の中で、外でイベントを行ったことから、その点が影響しているものと思います。その中でも6割ぐらいの方が、高評価をいただいているということで、これはプラスに捉えているところです。さらにコンテンツなどを磨きあげることで、まだまだ可能性があると考えています。

【会長】

今のお話しは、その季節に応じて、コンテンツの内容が変わり、例えば、秦野の冬の楽しみ方、夏の楽しみ方という四季に応じた楽しみ方をアピールできるようなコンテンツが作れば、市外の方にももっと魅力が伝わるということによろしいでしょうか。

【はだの魅力づくり推進課】

そのとおりです。

【委員】

観光振興課、観光協会の所管になるのかもしれませんが、今朝、秦野駅の1階の土産品のお店に行ってきました。関西から来た仲間に小田原で会うので、土産を渡すために行きまして、色々な話を聞いてきたのですが、とにかく観光客が来てくれないということでした。

地元の方が出掛けるに当たり、土産を買っていくということが多いということでしたが、本来は違うと思います。

OMOTANの中でも、商業ベースをうまく取り上げて、PRを是非していただきたいと思います。

【はだの魅力づくり推進課】

お土産屋に関しましては、のれん会が営業していますが、はだの魅力づくり推進課はもちろん、観光振興課、観光協会、さらには産業振興課も関わっておりますので、その辺りはお互いが良くなるような形で、今の御意見はしっかりとそれぞれに伝えたいと思います。

【委員】

この資料を確認させていただいた中で、OMOTANをブランド化し、今後、民間主導で事業継続し、イベントを実施していくという最終の目的地という意味では、現状において商業ベースに乗るのは、まだまだ先なのかなと読み取りました。

そうした中で、どのような形でOMOTANのブランドを定着させるかというところで、山に登られる委員から具体的お話がありましたが、私は山に登りません。山に登らない者からすると、違う世界の話というか、OMOTANを身近に感じないというのが正直なところです。

これが市民生活、登山の方だけではなく、身近なところでこのOMOTANを感じる事が出来ることが必要だと思います。街中ではなかなかOMOTA

Nを目にしないとします。駅を降りてもOMOTANがなかなか分からないという状況だと思います。

秦野の良いところは、山や森と生活環境が密接しているということだと思います。身近なところでOMOTANを目にするような、駅や駅の周り、705号の話もありますが、その辺りが一体となって、OMOTANのブランド化が進み、市民も含めてこんなに秦野は良いところなのだと感じられる取組が増えると良いと思います。

先ほどお話がありましたように、地元にいるとなかなか良さが分からないというのは、おそらくポイントになると思います。OMOTANの良さを地元の人にも伝えていくということになるのかなと思いますので、是非、そのようなところを進めていただきたいと思います。

そういう意味では、この民間主導のイベントのコラボレーションというものが、もっと増えてもいいのではと思いますので、もしかするとこの辺は少し弱いところなのかなと感じました。

【はだの魅力づくり推進課】

御指摘のとおり民間で自走というものは、ハードルが高いと感じており、まだまだ不十分だと認識しています。その点は継続して進めていきたいと考えています。

それから街中でというところでは、駅の周りにのぼり旗を立てさせていただいていますが、のぼり旗だけでは効果が不十分だと考えています。4駅賑わいの関係も4月から、はだの魅力づくり推進課の所管となりました。そちらで進めている秦野駅北口の取組とも連携しながら、進めていきたいと思っています。

【委員】

このままだと、PDCAがうまく回らなくて、事業の改善につながらないのではと危惧します。先ほど、会長からも御指摘がありました参加者のアンケート結果についてですが、この要因分析が甘いのではないかと、そもそも要因分析をする前提でアンケートを実施していないのではないかと感じます。

参加したいというKPIを設定していることから、それが目的かもしれませんが、それ以上に何が良かったか、悪かった人についてはどうしたらもっと良くなるか、目の肥えている方が参加しているのであれば、なおさらどうすれば良いかということを知ることが、要因分析や今後どうつなげたら良いかということを知ることが重視された使い方の方がいいのではないかと思います。

それからもう1点は、このKPIが適切かどうかということで、疑問があります。今の話の中で、この期待値というのが何を指しているのかというのを、

疑問に思っていたのですが、お話を聞いた中ではモニターツアーに参加した人のアンケートの結果ということでした。ただ、それでは小粒すぎるのではと感じました。先ほどお話がありましたが、インスタのフォロワー数はそのような指標として、適切なのではないかと感じました。それから、ホームページのアクセス数、ホームページを見て来てくれた人の数など、もう少しこのキャンペーンがお客さんをどのくらい呼び込んでいるのかが判断できるような指標を設定した方がいいのではないかと感じました。

K P Iは変えられないかもしれませんが、追加的にそのような指標も追っていった方がいいと感じました。

【はだの魅力づくり推進課】

ありがとうございます。大変参考になりました。御指摘のとおり、アンケートについては自由意見ということで書いていただきましたが、特に参考になったものとして、手軽さというところをもう少し引き出しながら、例えば、食材や道具など、必要なものを準備して、手軽で身近なツアーが表丹沢にあると良いといった御意見をいただいています。

そういった利用者目線での御意見も自由意見に記載していただいていますので、その意見を生かして、今後につなげていきたいと思っています。

K P Iについても、御指摘のとおりであり、今回のK P Iとは別に魅力づくり推進会議を庁内で行っています。その中で大きなK G I、目標値を持った方がいいのではないかという意見もあり、5つほど、新たなK G Iを設定しました。観光客の入込客数のほか、新東名高速道路への流入車の数、ホームページの閲覧数など、指標的にしっかりと確認できるものを新たに構想の進行管理の中でK G Iとして設定をしました。

そういったものをしっかりと今回の評価の補足的な検証資料として、今後も捉えていきたいと考えています。

【会長】

指標でいうと、はだの行政サービス改革基本方針実行計画はロジックモデルによる評価を実施しています。

しっかりとK P Iを作ろうと思うと、ロジック分析まではいかなくても、そのような発想で見えていかないといけないと思います。そうしないと適切なK P Iにならないと思います。せっかく見直すのであれば、そういった発想で見ただけだと良いと思います。

こちらの方が先行していたので、そのような発想が無いまま進んでいたと思うのですが、片方がそのような発想を取り入れて、フォーマットまで作ってい

るので、その枠組みは参考にされるといいのかもしれませんが。

それから、要因分析については、アンケートに加え、どこまで出来るか分かりませんが、OMOTANのホームページを見たときに、どこの項目にアクセスしているのが一番多いか、そしてその項目にアクセスした人は別のどの項目にアクセスしているのか、それらをデータとして取れると良いと思います。

OMOTANのホームページには民間のゴルフ場や乗馬クラブも含まれていると思いますので、それらと比較したときに秦野の魅力をどこに感じているのか、そこにアクセスした人は別のどこに魅力を感じているのかということ进行分析すると良いと思います。それにより、どのようにすればワンクリックをツールクリックにすることが出来るかということで、マーケット的につながると思いますので、御検討いただければと思います。

加えて、観光客数について、どのくらいお金が掛かるか分かりませんが、携帯電話を持っていると、携帯に何時にどこにいるかというデータが使えると思います。あれを使うのにどのくらいお金が掛かるか分かりませんが、先日伺ったところ、観光客数の調査というのは年に4回実施するというので、たまたま天気の良い日だと観光客数が多いことになるということでありました。

これが携帯電話のデータを使うことが出来れば、シーズンで全て分かると思いますし、属性まで判明すると思います。それが分かるのであれば、そういったデータを使って、把握するというのをやってみてもいいと思います。

【はだの魅力づくり推進課】

参考にさせていただきます。

【委員】

今日のテーマと直接関係しないかもしれませんが、私は東海大学前駅の方に住んでいるのですが、住民として、丹沢はあるということは承知しています。この点、市民がもっと触れ合える、丹沢を感じることができるようになれば、秦野に住んでいる誇りにつながってくると思いますので、そうした視点も含めて、御検討いただけると良いと思いました。

そして、その時に単にこのようなプランがあるということだけではなくて、水源を守るための取組も含めて、アプローチを考えていただけると良いかなと思いました。色々な切り口があると思いますので、御検討いただければと思います。

【はだの魅力づくり推進課】

ありがとうございます。参考にさせていただきます。構想の中においても、市民のシビックプライド、郷土愛の醸成というのは一つの大きなビジョンにしていますので、その点は欠かさず、取り組んでいきたいと思えます。

【委員】

私は最初の秦野名水名人になっています。環境共生課において、今年第2回目の名水名人が誕生したということで、環境共生課が認定した名水名人がおそらく50名ぐらいになっていると思えます。

積極的に環境共生課を中心に湧水巡りを行おうという計画を立てていますので、是非、その辺は観光協会や公民館も含めてタイアップして、整備を進めてもらいたいと思えます。

そして、その辺のところを市民にどのようにPRするか、工夫していただきたいと思えます。

【会長】

その他よろしいでしょうか。

それでは地方創生関連交付金の効果検証ということで、有効であったかを評価するのですが、改善点は色々あるものの、有効であったということでよろしいでしょうか。

改善点は先ほど皆さんから色々な御意見をいただきましたので、その点を意識していただき、そしてスピード感という点は3年前から御指摘しているところということで、是非、スピード感のある形で改善に取り組んでいただくということを前提に、有効であったということでよろしいでしょうか。

— 委員了承 —

【会長】

ありがとうございます。

それではそのようにさせていただきます、調書の意見の作成に当たっては、本日、最後になってしまいますので、最終的には私と事務局に御一任いただければと思えますが、よろしいでしょうか。

— 委員了承 —

【委員】

表丹沢野外活動センターの件ですが、積極的に市民や市外の人を誘客するに当たり、宿泊となると、4人部屋が2つ、10人泊まれる部屋として大部屋が4つあります。そうすると、例えば、家族や小グループでは泊まりづらい環境にあると思います。個室は一切ありません。

そのような環境の中で、出来るだけ皆さんに来てもらうことになると、10人の部屋を例えば簡単なパーティションで仕切ることやそういう施策を新たな指定管理者とよく打合せをしないと、なかなか表丹沢野外活動センターに行こうかと言っても、行かないのではないかと思います。その辺は政策的に是非、工夫をしていただきたいと思います。

県の補助金をもらっているので、内部の改装が難しいということですが、そうではなくて簡易的なパーティションを作るなど、そういった施策をしないと、誘客につながらないと思いますので、是非検討してください。

【はだの魅力づくり推進課】

表丹沢野外活動センターに関しまして、いただいた御意見は所管課であることも育成課に話をしておきます。来年の4月から指定管理者となるMGMグループと現在調整を進めているところです。その中で指定管理者の意向や、指定管理業務の仕様書を事前に示して指定管理者を指定した経過もあります。このため、まずはいただいた御意見を所管課に伝えさせていただきたいと思いますので、御理解いただければと思います。

【会長】

今の話も先ほどの茅野委員のお話もそうですが、問題が起きたときにアクションに行くまでに行政の柵があったり、今の指定管理者との柵があったりとか、なかなか色々な問題がある中、すぐに進まないということがあります。その中で、問題解決するための工夫を何かしていただきたいということだと思うのですが、誰が責任を持って管理していくのかという仕組みが利用者側からすると、歯がゆいところが残ってしまうと思います。是非、すぐアクションに移せるようなガバナンスの仕組みというのが出来ないと、なかなかまた来年も再来年も同じ話をするのかという気がします。

構造的な問題だと思いますが、いかがでしょうか。

【はだの魅力づくり推進課】

お伝えの仕方が良くなかったのかもしれないのですが、表丹沢野外活動センターに関しましては、現状で課題が色々ある中で、それをどのように改善し

ていくことによって、より多くの方に利用していただけるかということを目的に指定管理に移行しています。

その移行に関しましても、今の表丹沢野外活動センターの先ほどの部屋の使い方や他のことも含めて、どのようにすればより良いかということで、現在、MGMグループと調整を進めているところです。民間のノウハウの中で、どのような活用をすれば、より多くの方に使っていただけるか、そういった視点で御意見をいただきながら、調整を進めています。

その中で、来年4月のスタートのところでは、一番ベターな方向で出発できるかと思っています。その点、御指摘のありましたパーテーションの部分は指定管理者としての判断もあると思いますので、すぐに実現できるかというお話はできませんが、利用者にとってより魅力があって、良い施設になるよう、4月に向けて、所管課で調整を進めていますので、その点、御理解いただければと思います。

【会長】

はだの魅力づくり推進課として、課が出来たということが大きな変化だと思います。課として新設されたということの良さを、是非生かして取り組んでいただきたいと思います。

それでは、これで効果検証に係る審議は以上とし、次の議事に移りたいと思いますが、よろしいでしょうか。

— 委員了承 —

【会長】

ありがとうございます。それでは次の議事に移りたいと思います。

【事務局】

それでは、ここでははだの魅力づくり推進課は、退席させていただきます。

— はだの魅力づくり推進課退席 —

【会長】

それでは、議事(2)の審議に移りたいと思います。

前回の会議において、御意見をいただき、そして会議後においても、御意見をいただきました。

それを踏まえ、評価報告書の内容を見直していただいていますので、その点

について、説明をお願いします。

【総合政策課】

－ 資料 2 に係る説明 －

【会長】

ありがとうございます。前回、御議論いただいた点について、修正すべき箇所が修正されているか、またうまく反映されているかを御議論いただければと思います。

それからもう少し付け加えた方がいい点又は趣旨が異なるなど、お気づきの点があれば、どこからでも構いませんので、御発言いただければと思います。

【委員】

K P I とは少し違うのですが、基本目標 1 で健康で安心して暮らせるプロジェクトに環境の問題が含まれていますが、ここにごみのことを触れた方がいいのではないかと思います。

世の中では S D G s の視点から、世界的に取り組が行われていて、ごみの減量化、分別収集、ごみの散乱防止など、事業者は一生懸命頑張っていますが、市民にも責任があるわけで、その辺のところを是非環境の問題として、コメントの中に触れた方がいいのではないかと思います。

それから、10月1日の人口と世帯では確実に社会増となっているほか、出生が74人、死亡が164人となっています。このような中、ここには触れられていませんが、子どもを育てやすいというより、産みやすい環境というものにも、もっと踏み込むべきだろうと思います。是非、この点はコメントで触れていただければと思います。

日赤の問題など、色々と難しい問題がありますが、市としてはこのような支援が出来るということを前面に出すことによって、秦野は子どもが育てやすいという前に、産みやすい環境であるということ、是非、工夫をしていただきながら、取り組を進めていただきたいと思います。

【会長】

最初の基本目標 1 でいうと、健康で安心して暮らせるということを考えたときに、リサイクルなどのごみの問題に十分注力していただきたいということの御意見があったということになると思います。

基本目標 2 では、ここに子育てだけじゃなくて、安心して産むことができるということも加えるということになると思います。

日赤のことは長期で話題になっておりますが、なかなか解決せず、以前、人口増についての議論をしているときに、秦野市内で子どもを産める環境が無いというときに、地域で確保されていればいいのではという議論があったと思います。その議論の中では、地域医療として考えると、やはり市内にあった方がいいのではないかと、そのような話になったと思います。やはり市内にあるということは、大切なことなのだと思います。

ワーディングは御検討いただくとして、趣旨はそのようなことだと思いますので、付け加えていただければと思います。

25 ページを開いていて少し気になったのですが、外部評価のところワーディングだけですが、最後の行で教育的な観点（食育）の更なる展開とありますが、観点からの更なる展開が適当だと思いますので、修正をお願いします。

その他、いかがでしょうか。

【委員】

評価に入れられるようであれば、入れていただきたいものとして、2点あるのですが、一つ目がコロナの影響の関係ですが、資料を見ている中でコロナにも関わらず、良くなっている指標があり、ポジティブな面に目を向けるということは書いてあるのですが、一方でコロナだから仕方がないという思考停止に陥っている面もあると思います。

ポジティブな面に目を向けるということと、コロナで伸び悩んでいる指標についてもきちんと分析をして、コロナからの復活を目指していくような、そういった検討を積極的にした方がいいのではないかと思います。

もう一つは、KGIについて、KGIは最終的に評価をするという位置付けになっていると思いますが、KPIだけ追ってればいいかというのと、そうではなくて、KPIがきちんとKGIの達成に寄与しているかどうかという観点が必要だと思います。KGIを毎年見る必要は無いと思いますが、少なくとも中間年度の状況を見ながら、それに対してKPIがきちんと寄与しているかどうかを踏まえながら、PDCAを回していくという観点が来年度、再来年度には重要になってくると感じました。

そのようなことを今の段階から少し触れておいてもいいかなと思いました。

【会長】

今の点は、当然の前提としておそらく抜けてしまっている観点だと思いますので、入れていただいた方がいいのかなと思います。

【委員】

今の御指摘に関連して、23 ページにコロナだから保護者アンケートが実施できなかったということが書かれていますが、ICTを活用しようと言っている中、紙でのアンケートは実施できなかったかもしれませんが、何らかの方策を考えるべきではないでしょうか。

【総合政策課】

学校ごとにアンケートを行ってきたところですが、今の御指摘のように今後に関しては、学校評価アンケートということで、もともと実施しているアンケートがありますので、そこにこの園小中一貫教育が推進されているかどうかという項目を付け加えることによって、実施していく予定です。

今年度から調整を進めていますので、令和3年度はこのような結果となりましたが、令和4年度はそれを見直して実施しているところです。

【会長】

アンケートは紙で行っているのでしょうか。

【総合政策課】

紙で行っているものですが、ICTの観点も含めて、見直しを図っているところです。

【会長】

その他、いかがでしょうか。

【委員】

KPIとKGIというのは、組織の合意事項だと思うのですが、これは誰と誰の合意事項になるのでしょうか。例えば、市長と部長の間によるものかどうか、誰と誰のものになるのでしょうか。

【総合政策課】

各部署が目標を掲げて、それについて、市長を含めた会議の中で決定したものになります。

【会長】

約束事項としては、部課等と市長との約束事項になるのでしょうか。

【総合政策課】

秦野市としての目標になります。その決定の過程においては、担当課が目標を掲げて設定をして、それを会議の中で決定をしたというもので、それが最終的には秦野市の目標として、公表するというものです。

【委員】

組織の目標ということであれば、それをやり切ることが前提であると思います。その合意は誰と誰の間になされているのか、その点がよく分かりませんでした。

それから、これは単なる努力目標になるのでしょうか。頑張ったけれど駄目でしたと終わってしまうものなのか、それとも秦野市のビジョンを実現するために、このKPIがどうしても必要だから、必ずやり切るといったものなのか、どのようなものなのでしょうか。

【総合政策課】

対外的に公表していますので、今のお話の場合だと後者の方で理解していただければと思います。

【委員】

目標が達成できない場合もあると思いますが、これは仕方がないということでしょうか。

【総合政策課】

処罰があるというわけではありません。

【委員】

ただそれは約束を守らなかったということだと思います。それはそれでいいのでしょうか。

【会長】

人事評価とはリンクしていないのでしょうか。

【委員】

組織とは約束事で成り立っていると思います。

【総合政策課】

当然、説明責任はありますが、懲罰というものが発生するわけではありません。

【委員】

これは約束事として決められているのか、それとも単なる努力目標として、そこに向かってやりましようとしていて、結果はそこまで問わないというもののなのか、どちらでしょうか。

【総合政策課】

そういう意味では中間的な位置付けかと思います。

【委員】

そうなる今回資料に、外部評価の総括となっていますが、この3番目が大変重要であると思います。KPIは一定の限界があり、常に秦野市のビジョンに向かって、進捗に応じて工夫し、そしてやり方を変えながら、戦略の一つのツールであるということで、この精神がすごく大事だと思います。

どのようなことがあっても、この都市像「水とみどりに生まれ 誰もが輝く暮らしよい都市（まち）」を達成しようという気持ちが無いと、数値によるマネジメントはうまく行かないというのが、普通の企業感覚です。

最後のページの3段目の不断の見直しを続けることで柔軟に推進することや定性的な面も定量的に評価するための工夫が必要だと書かれていますが、本当に一番大事なことは心だと思います。

市長から担当の職員までが、暮らしやすく、幸せを感じるまちに秦野市をするのだということを使命として捉え、そしてその使命を果たすための覚悟がここに書かれていて、どんなことがあってもそれを実現していくということだと思います。

数値で進行管理していると数値化できない重要なことというのは、色々あると思います。KPIに設定したものが絶対的に正しいものかというのは分からないと思います。

このため、それを一つのツールとして活用して、どんなことがあっても、あるべき秦野市を作っていくのだと、自分たちが作っていくのだという心が大事だと思います。

もし、可能であれば、3段目のところに覚悟などの字句を入れていただけるといいかなと思いました。

心が行動を促すということです。数値による管理は限界があります。職員が

仕事に燃えるような心のマネジメントが求められると思います。

【会長】

御指摘のことを取り込むとすると、進行管理するためのツールです、のあとに、KGIやKPIで表現されている職員が追及すべき価値というものを照らし合わせて、そこに向かって、コミットメントしていくという風土を大切にしながら大局的に見ていただきたいということでしょうか。

組織の風土をどう変えていくかということは、大変大きな問題だと思います。

私が今回の評価の中で印象的に感じたこととして、ネーミングライツが何年か前には出来ないということでしたが、実績が出てきたという中で、それがなぜかというのが不思議でした。この点をお伺いしたら、マインドの変化とつながりなどを生かした少しの工夫ということでありました。

同じ話が企業誘致でも考えられ、企業誘致が出来ないということでありましたが、マインドがあればそれが可能になるのだと思います。

そうした風土を変えるということは大変重要な視点であると思います。そのためには固定した数値だけを見るのではなくて、達成しようとするを常に見直さないといけないと思います。

【委員】

今の御発言は大変素晴らしいものだと思います。その中で教えていただきたいのですが、市役所職員の方が労働生産性を高めるために取り組んでいることは何かあるのでしょうか。

例えば、年功序列とかではなく、成果を上げたらそれに伴い昇進が付いてくることやお給料に反映されることなど、そのようなことはありますでしょうか。それとも成果物とは異なる次元で、心とかそのような次元で動いているものなのでしょうか。

市役所の方がどのように労働生産性を高めているのか、それに係るメカニズムがあれば教えていただきたいのですが、いかがでしょうか。

【事務局】

労働生産性を高めるメカニズムということですが、職員（ひと）づくり基本方針というものをまず定めています。その中で人材育成は環境整備、人事評価、そして研修を3本柱としており、御指摘の職員のモチベーションを高めていくという点では、年に2回人事評価を実施しています。

この人事評価は勤勉手当のために実施しているわけではなく、評価項目が約

20項目あるのですが、それをSからDまでの中で自己評価をして、上司である課長代理、課長、部長と評価をします。

その中で自分の何が足らなかったのか、例えば、今後このB評価をA評価に上げるためにはどうしたらいいのかを考えるきっかけにしています。

そうした人事評価に基づき、評価の高い職員に対しては、勤勉手当に反映するとともに、次年度の人事異動や昇進、昇格などの参考にするという具合です。

【委員】

民間企業の場合、目標設定が一番難しいのですが、人事評価の項目が約20項目ということでありましたが、目標は与えられるのでしょうか。そして、それに対してどうかという評価をするのでしょうか。

【総合政策課】

人事評価は意欲や姿勢に係る項目が複数あり、それから実績などの項目があります。

【委員】

それと今回の総合戦略の評価とは、切り離されているのでしょうか。

【事務局】

これとはまた別になります。総合戦略は本市の総合計画と連動しています。ここで定めている目標値、そして最終的に目指す都市像というものがありますが、その目指す都市像に少しでも近づくようにということで、全ての分野において、それぞれ目標値を定めて、今よりそれを高めることによって、市民が幸せを感じるとともに、そうした環境を創造していくということで、ハードとソフトで、それぞれの施策を実施しているということです。

先ほど御指摘の心の部分もこの中に入っていると思っています。

【委員】

市の職員の皆さんは基本の仕事があり、そのレベルをいかに上げていくかということで評価されていて、それとは別にこのKPIを設定して、秦野市の戦略を実現するために取り組んでいるということでしょうか。

【委員】

落とし込みとして、日常やっている業務が最終的にどのようなことにつながっているのかということを上司がきちんとアドバイスをすべきだと思います。

現場での落とし込みについて、上司との話し合いが進んでいる部署は、割と前向きだと思います。その点は管理職の差が出てくるところだと思いますので、その点は是非よろしくをお願いします。

【会長】

一時、K P I やK G I の評価を入れるということが言われたときに、行政においても、民間と同じように人事評価の目標管理と連動しようという動きがありました。行政の仕事はなかなか数値に表しきれない部分があり、そこまで連動させるということが進まなかったというのが、ここ 20 年ぐらいの歴史であると思います。そうした中で、このK P I やK G I の使い方としては、人事管理に直結させずに、計画体系の管理のために、という使い方になったのだと思います。

その一方で、ソーシャルインパクトボンドという発想は、人事管理ではないですが、受託する企業側と行政との間の契約として、その契約の指標に基づき報酬を支払うというもので、この関係が成立するということが実証されつつあります。

そのようなことを考えると、全ての分野では難しいかもしれませんが、ある分野に関しては契約という発想を入れて、その指標を使いながら、それで管理をしていくということは考えられると思います。

全ては難しいかもしれませんが、それがどこまで可能で、どこまで入れていくかというのは、これから試行錯誤をしていかなければいけないことだと思いますが、そんな動きのある今は、端境期にあるのかなと思います。

その他、いかがでしょうか。

よろしいでしょうか。

— 委員了承 —

【会長】

ありがとうございます。

それでは、最後、完全なワーディングにはなっていませんが、幾つか御指摘いただいた点について、事務局と私の方で調整させていただいて、最後、皆さんに御報告をさせていただき、それで市長に御報告をするということにしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

－ 委員了承 －

【会長】

ありがとうございます。それでは、そのようにさせていただき、以上で本日の議事を終わります。

最後に、その他として委員の皆様から又は事務局から何かありますでしょうか。

【事務局】

委員の皆様、大変お疲れ様でした。

ひとまず、本日が令和3年度からの2年間の任期であります最後の会議となります。

昨年度、また、今年度と引き続く新型コロナウイルスの影響の中で、「第3次はだの行革推進プラン」、また「はだの行政サービス改革基本方針実行計画」、そして「秦野市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の評価と、大変熱心に御審議をしていただきました。

特に「はだの行政サービス改革基本方針実行計画」では、当該年度中に評価を行うという初めての取組となり、御迷惑をお掛けした点もあったかと思いますが、委員の皆様には様々な面から、多岐にわたり御意見をいただきました。

この後、報告書として市長に御提出いただきますが、皆様からいただきました御指摘や御提案を今後の施策にしっかりと生かしていきたいと考えております。たいへんありがとうございました。

それから、市長報告の日時についてですが、12月12日（月）午後2時からを予定しています。

昨年度は、調査会を代表して、会長及び副会長にオンラインにより、御報告をしていただきましたが、今年度は対面で、かつ、会長、副会長に限らず、委員の皆様も参加していただけるよう、調整を進めていく予定です。

詳細につきましては、別途、御連絡させていただきますので、日程の確保について、御配慮いただければと思います。

【会長】

お陰様で2年間無事に終えることができました。この会議は、大変刺激を受けるので、いつも楽しみにしておりました。

昨年度はオンラインで私と副会長により、市長へ報告をさせていただきましたが、皆さんの生の声が市長に直接届いていないのではということをご心配して

いましたので、是非、お時間が合えば、市長報告に参加していただければと思います。本当にどうもありがとうございました。

これで終わりたいと思います。お疲れ様でした。